

公益社団法人 日本青年会議所	
2020年度関東地区協議会 政治リテラシー醸成委員会	
	委員長 松島 清行
現 状 分 析	「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え自ら判断し、行動していく主権者」があるべき主権者者像と望まれている一方、若者世代は、自らの利がなければ投票行動に至らないとされています。これは、地域や他者との関わりが少ない事に問題があり、共生社会確立を目指す上でも、健常者と障がい者が触れ合う機会が少ない事に原因があります。若者世代が社会課題に直接触れる機会は、若者の無関心を関心に変える事に繋がります。
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> ■若者世代が、政治に対して当事者意識を持ち地域の課題に積極的に取り組んでいる状態 ■健常者と障がい者が互いに理解を深め、互いに協力して社会参加をしている状態
連携概要	<ul style="list-style-type: none"> ■主権者意識醸成プログラム作成事業の実施 関東地区協議会内の若者世代と共に、主権者醸成を専門に研究している、大学教授・有識者等の専門家を交え、主権者意識の醸成を目的としたゼミを組織し、さらに、大学の主権者意識醸成に向けた取り組みを行っている若者世代に協力して頂く事で、参加者への効果を高めます。また、関東地区協議会内のブロックやLOMから、主権者意識醸成に向けた運動の内容や効果をヒアリングし、時代に即した形に改善して主権者意識醸成プログラムを作成します。 ■パラスポーツを活用した共生社会確立事業の実施 JCカップ全国大会予選大会において、公益社団法人日本障がい者スポーツ協会様に協力して頂き、JCカップに参加した子供達やJCメンバーに、パラスポーツの体験や観戦する事を通して、触れ合う機会を創出致します。さらに、健常者と障がい者が共に協力して事業運営をする事で、運営側、参加者側の両方に互いに触れあう機会を提供し、観戦する指導者や保護者の方々に、スポーツの持つ力の有効性を伝播し、お互いを配慮し存在を認め合う、共生社会確立に向けた理解促進に繋がります。
S D G s	4 10 16 17
政 策 手 法	<ul style="list-style-type: none"> ■大学・有識者との連携した主権者意識醸成プログラム作成事業の実施 関東地区協議会内の、主権者意識醸成に向けた取り組みについての資料を集めゼミを通して検証を行い、それをベースに主権者意識醸成プログラムの作成を行います。また、作成した主権者意識醸成プログラムを、JCメンバーが多く集まる関東地区大会のフォーラムにて発表を行い、関東地区協議会内の若者世代の主権者意識を醸成させ、参加したJCメンバーを通して、各地域で主権者意識醸成に向けた運動として取り入れて頂く為の発信を行うと共に、完成した主権者意識醸成プログラムを、参加者に配布致します。 ■パラスポーツを通して、障害者と触れ合う機会を創出する共生社会確立事業の実施 政策目標によれば、「スポーツを、多様な人が一緒に楽しむ事で、障害のある人や体力のない人への理解を深めていく事が出来る」とあります。健常者と障がい者が、パラスポーツを互いに協力して、体験する事で相互理解を促します。また、障がい者の方々にも事業の運営にご協力頂き、健常者と障がい者が触れ合う機会を創出致します。健常者と障がい者が互いに協力して事業を運営する事で、相互理解に繋げ、共生社会確立に向けた理解促進に繋がります。
パ ー ト ナ ー	<p>東海大学【協力】・神奈川大学【協力】公益社団法人平塚青年会議所【協力】</p> <p>公益社団法人日本障がい者スポーツ協会【協力】・名蹴会【協力】</p>